

第 2 章

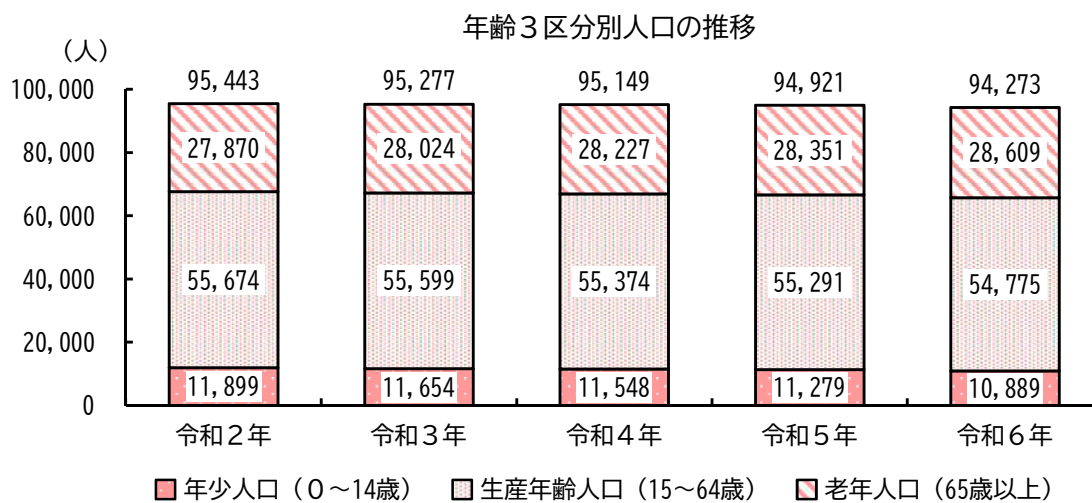
こども・若者・子育てを取り巻く
現状

1 芦屋市の現状

(1) 人口の推移

① 年齢3区分別人口の推移

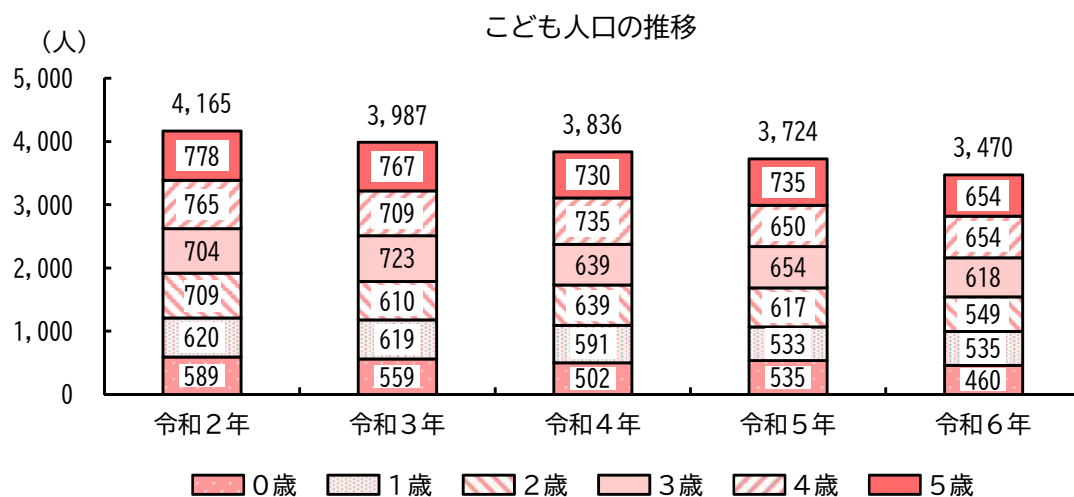
本市の人口推移をみると、総人口は減少傾向であり、令和6年3月末では94,273人となっています。また、年齢3区分別人口構成の推移をみると、年少人口（0～14歳）は年々減少し、令和6年では10,889人となっており、人口の約12%を占めています。



資料：住民基本台帳（各年3月末日現在）

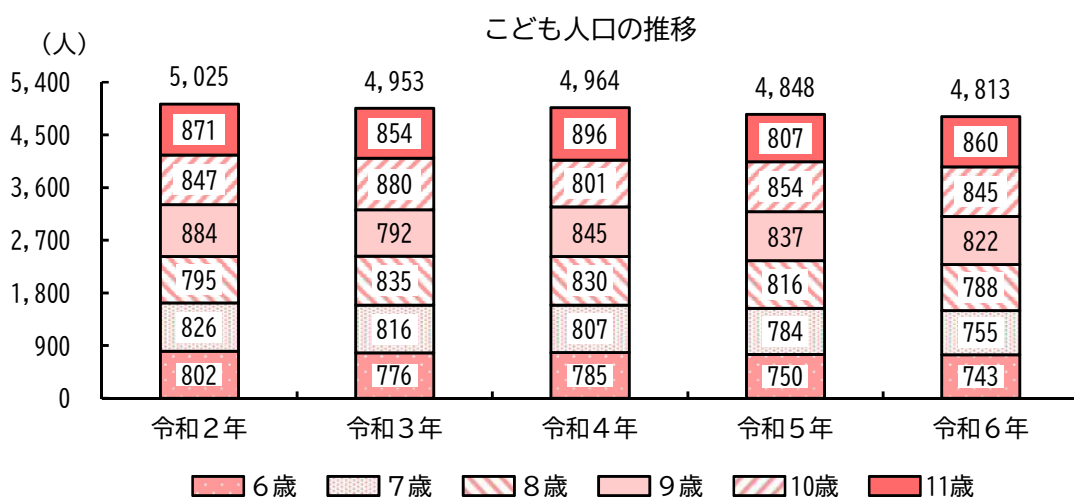
② 年齢別就学前児童数の推移

本市の0歳から5歳のこども人口は年々減少しており、令和6年3月末では3,470人となっています。特に他の年齢に比べ、0歳と2歳の減少率が高くなっています。



③ 年齢別就学児童数の推移

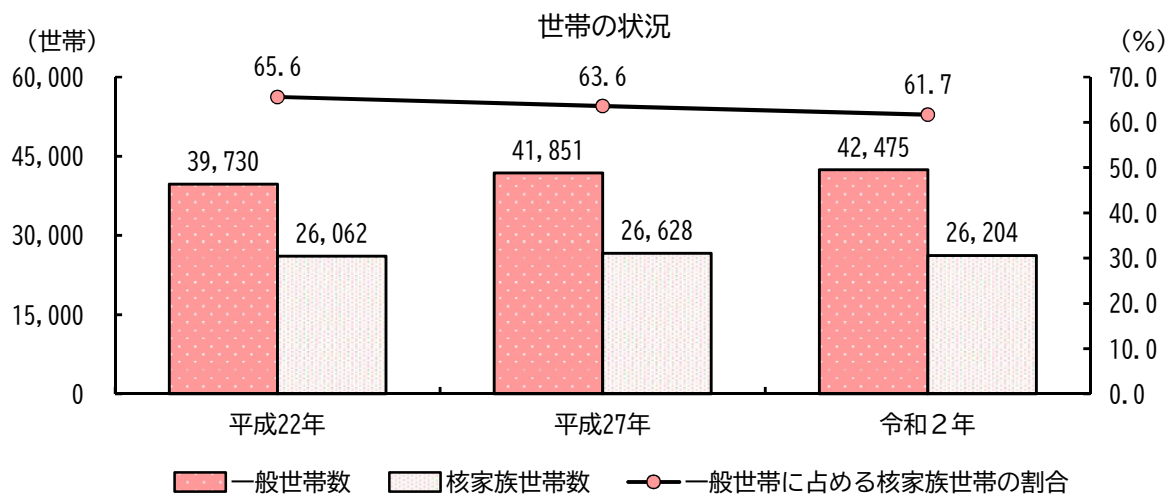
本市の6歳から11歳のこども人口は年々減少しており、令和6年3月末では4,813人となっています。特に他の年齢に比べ、7歳の減少率が高くなっています。



(2) 世帯の状況

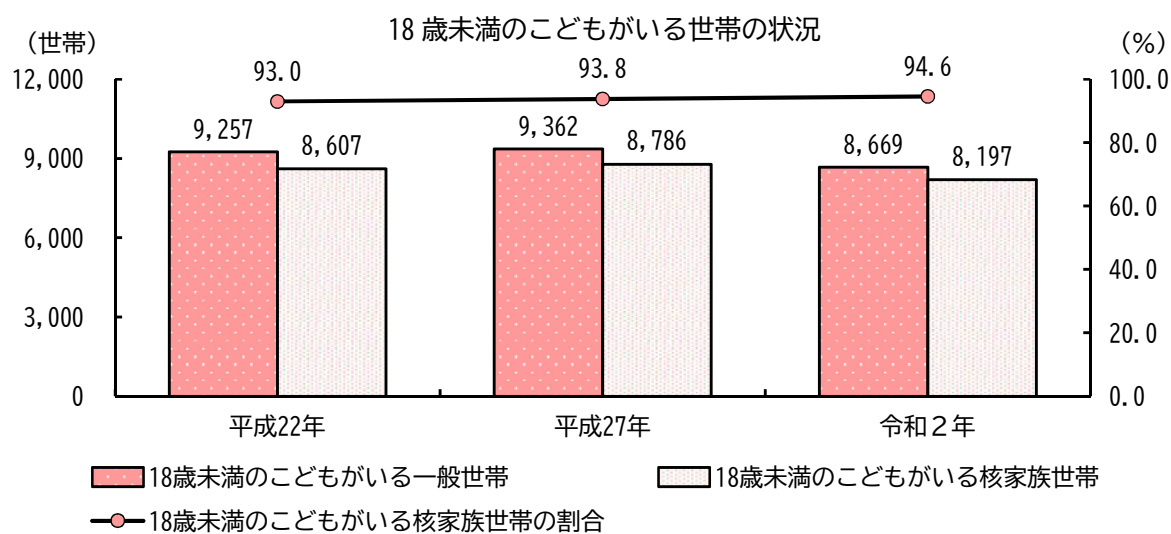
① 核家族世帯の推移

本市の核家族世帯数は横ばいで推移しており、令和2年では26,204世帯となっています。



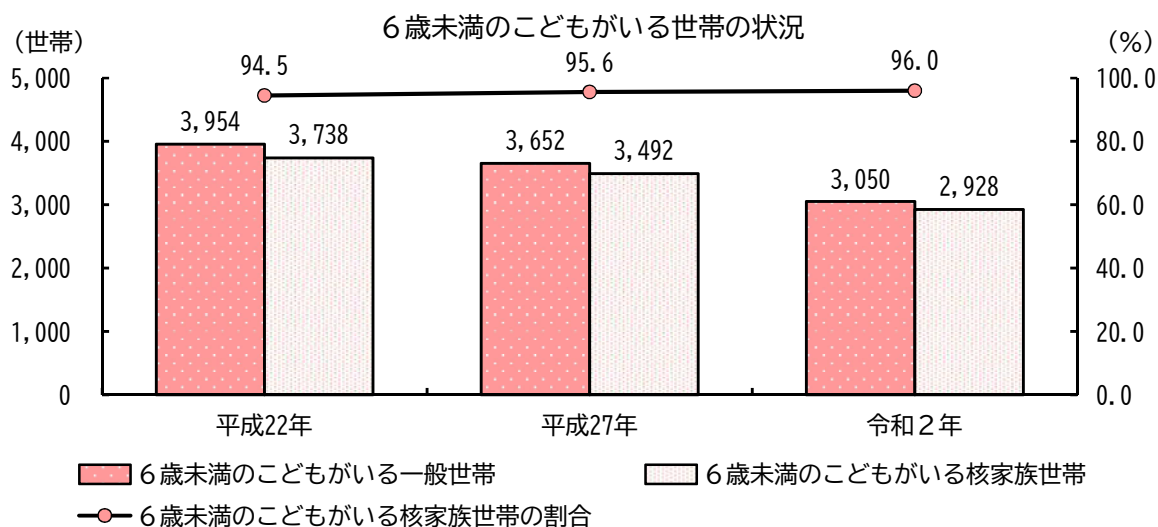
② 18歳未満の子どもがいる世帯の推移

本市の18歳未満の子どもがいる核家族世帯は減少傾向にありますが、当該割合は増加しています。



③ 0歳から6歳未満の子どもがいる世帯の推移

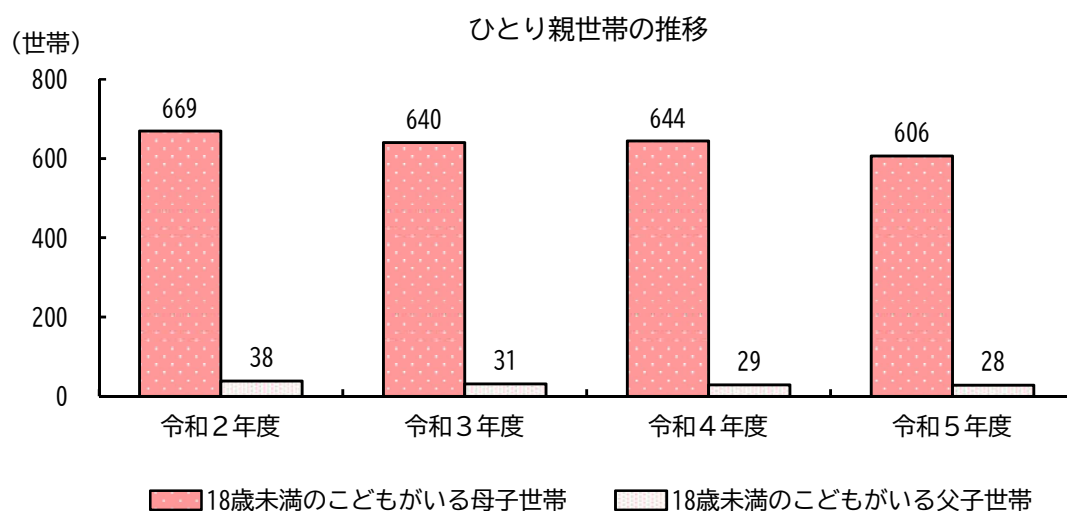
本市の6歳未満の子どもがいる核家族世帯は減少傾向にあります。当該割合は増加しています。



資料：国勢調査（各年10月1日現在）

④ ひとり親世帯の推移

本市の18歳未満の子どもがいる母子世帯は令和2年度より減少しており、令和5年度では606世帯となっています。また、18歳未満の子どもがいる父子世帯も年々減少し、令和5年度で28世帯となっています。

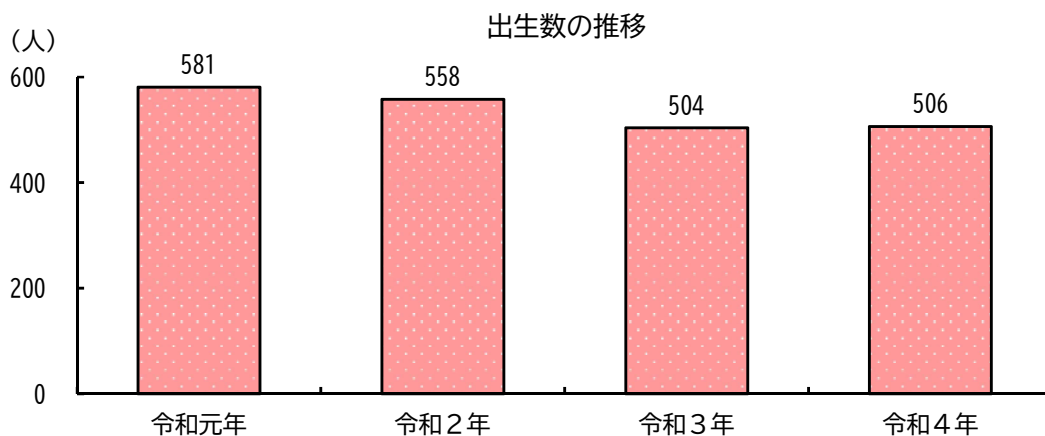


資料：事務報告書（各年度3月末日現在）

(3) 出生の推移

① 出生数の推移

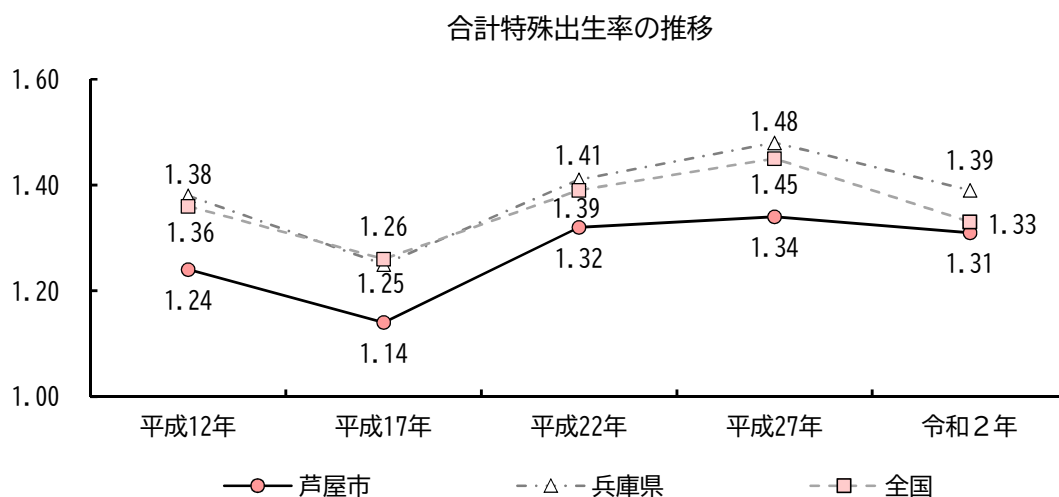
本市の出生数は減少しており、令和4年で506人と過去4年間で75人減少しています。



資料：兵庫県保健統計年報

② 合計特殊出生率の推移

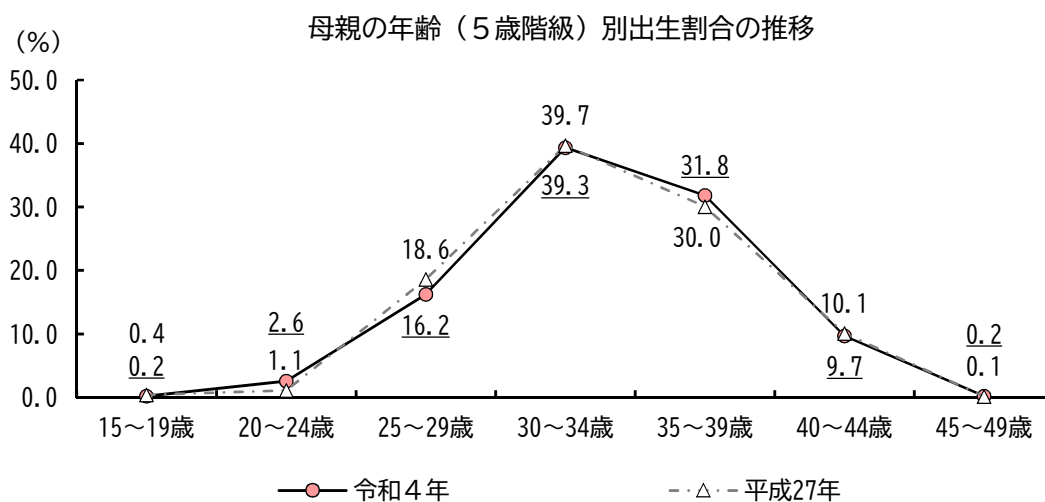
本市の合計特殊出生率は増減を繰り返しながら推移しており、令和2年で1.31となっています。また、全国・県と比較すると低い値で推移しています。



資料：兵庫県保健統計年報

③ 母親の年齢（5歳階級）別出生割合の推移

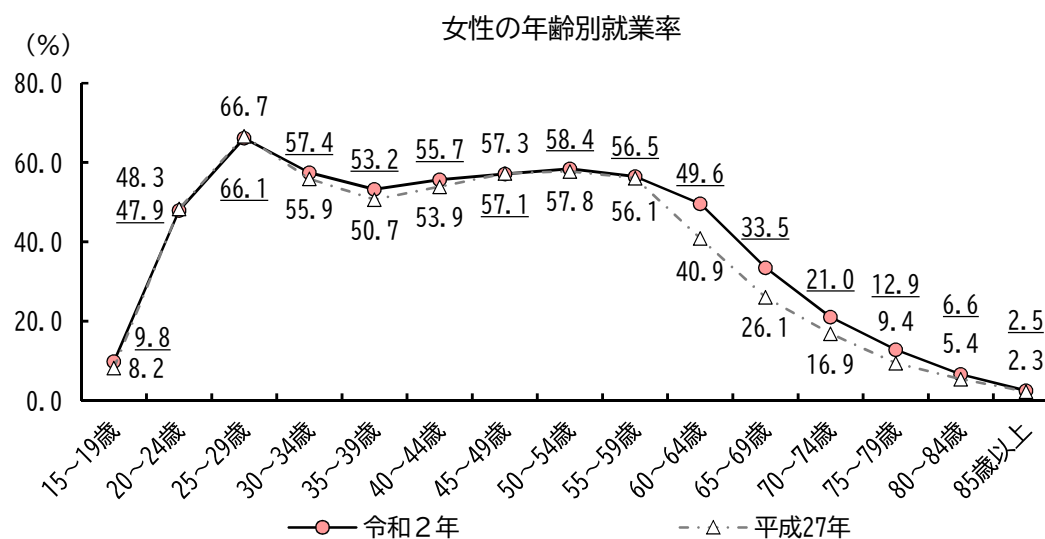
本市の母親の年齢（5歳階級）別出生割合の推移をみると、平成27年に比べ令和4年で、20歳から34歳の割合が減少しているのに対し、30歳から39歳の割合が増加していることから晩産化が進行していることがうかがえます。



（４）就業の状況

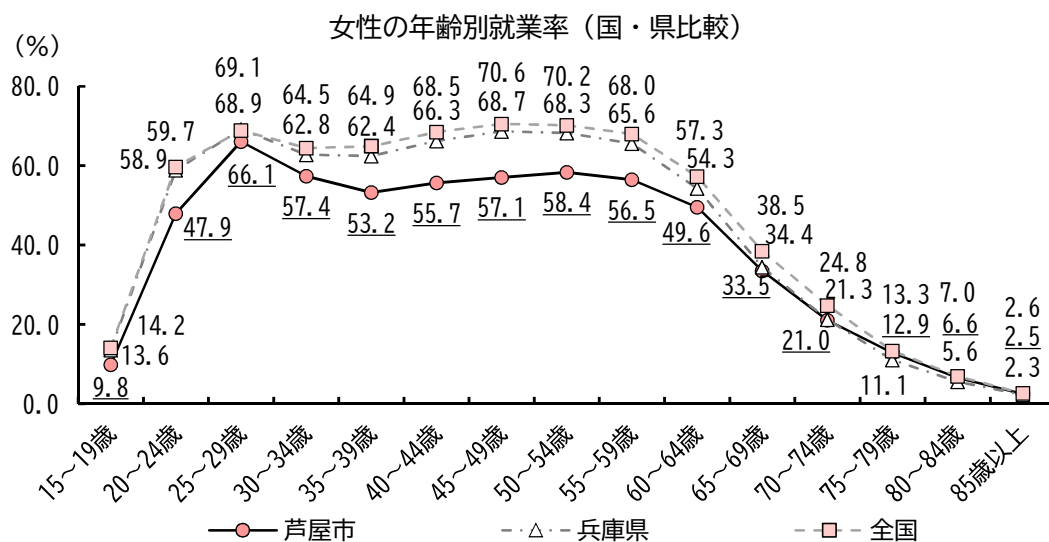
① 女性の年齢別就業率の推移

本市の女性の年齢別就業率は、出産・育児期に落ち込み、再び増加するM字カーブを描いています。落ち込みの大きい30歳から39歳の就業率は平成27年に比べ令和2年で上昇し、近年ではM字カーブは緩やかになっています。また、60歳以降の就業率が上昇しています。



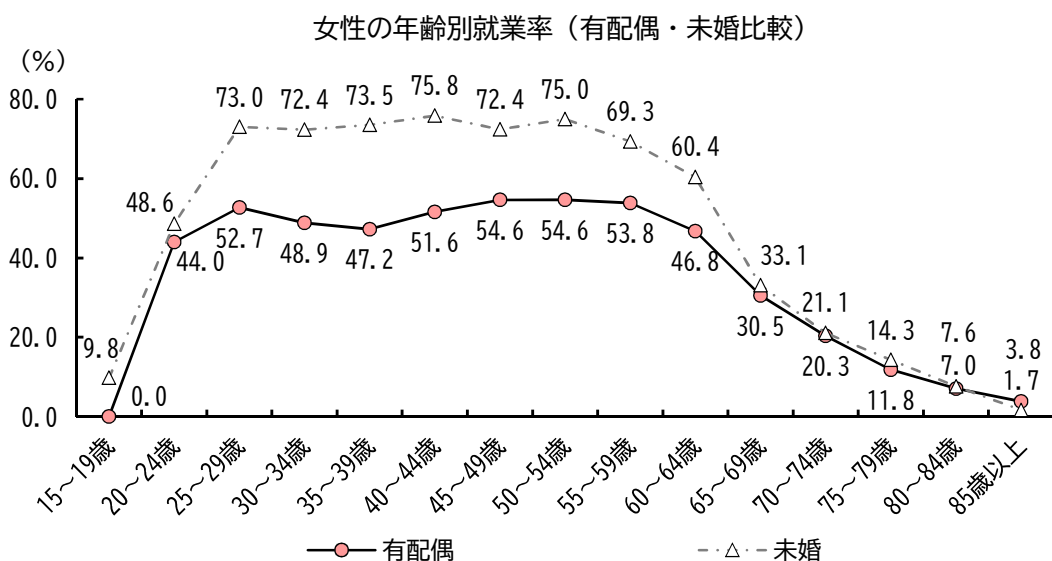
② 女性の年齢別就業率（国・県比較）

本市の令和2年の女性の年齢別就業率を全国、県と比較すると、ほぼ全ての年代で全国・県より低い値となっています。



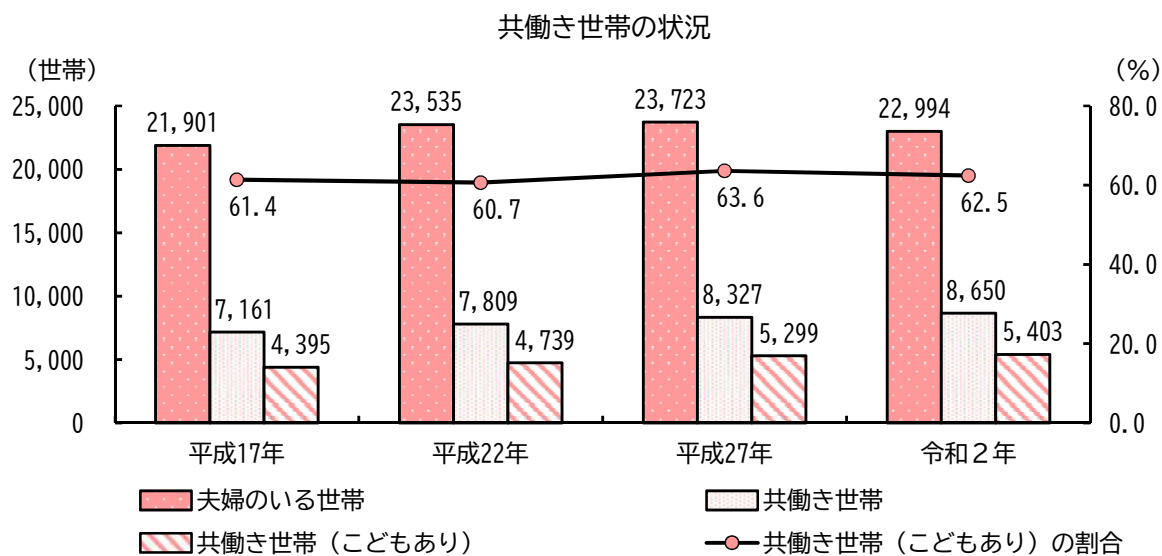
③ 女性の年齢別就業率（有配偶・未婚比較）

本市の令和2年の女性の有配偶・未婚別就業率をみると、ほぼ全ての年代で有配偶者に比べ未婚者の就業率が高く、25～64歳では大幅に高くなっています。



④ 共働き世帯の状況

本市の共働き世帯は年々増加しており、こどもがいる共働き世帯は令和2年で5,403世帯あり、平成17年から約1.2倍に増加しています。



⑤ 将来推計人口予測

本市の0～11歳までの将来推計人口は、年々減少傾向で、令和11年には6,987人と予測されていることから、令和6年に対して、1,296人程度減少する見込みです。

